

# 土偶のこれまでの解釈は妥当か

～多摩ニュータウン遺跡から考察する土偶がもつ新たな意味・機能～

有松 樹莉（日本大学東北高校3年）

A.

## 研究の動機

現在、学校で使用している歴史の教科書では土偶の使用目的について、ほとんどの土偶が女性像であることから安産祈願や子孫繁栄を願って作られたという説明がされている。しかし、中には女性とは言えないような形のもの、出土した場所や環境から考えると安産祈願を願って作られたものではないものも確認できる。土偶の使用目的について、教科書の説明のような解釈で妥当なのか。多数の住居跡や土偶が発見された、多摩ニュータウン遺跡から考察する。

B.

## 調査地



東京都埋蔵文化財センター(東京都多摩市)

D.

## 考察

①この土偶も多摩ニュータウン遺跡から出土した他の土偶と比べると比較的破壊部分が少ないこと、柱の内部に土偶を埋め込むには住居の建設時に埋め込む必要があることから、住居の守り神のような存在として使用していたのではないかと考察できる。

②多摩ニュータウン遺跡で出土した土偶のうち、この土偶と同じように前後に脚が突き出ている土偶をみると、全て胸の膨らみはなくただ脚だけが前後に突き出ている。この土偶の様々な特徴から、故意に胸を削られ、女性表現が摩滅されていることから、男女両性の土偶だと考えた。また、出土した場所から安産祈願を願って作られたり使用されていたりしていたとは考えにくい。

③この遺跡から出土した土偶は全て両脚がくっついており、へりがなめらかであることから土偶を台座のようなものに立てて使っていたと考察した。両脚の間に隙間を作ってしまうと立てて使う時に安定しない。しかし、両脚をくっつけて接着部分を平坦にすることで立てて使用しても安定する。なぜ立てて使用したかは不明だが、今まで立てて使用していなかった土偶を立てて使用することにより、また新たな使用目的が生まれたのではないかと。

C.

## 結果

### ① No.939遺跡の土偶

No.939遺跡から出土した土偶の1つは、住居跡の柱が立っていた部分から発見された。また、この土偶は当時は住居の柱の内部に埋め込まれていた。日本各地で住居跡から土偶が出土することはあるが、柱の内部から発見されることは稀である。また、縄文時代には定住が始まり住居の入り口付近に完全な形の土偶を入れる風習のあった地域も存在する。この土偶も多摩ニュータウン遺跡から出土した他の土偶と比べると比較的破壊部分が少なかった。

### ② No.57遺跡の土偶

No.57遺跡から出土した唯一の土偶は、頭頂部や片腕や片脚の先端部分だけが部分的に欠けているほぼ完成品の土偶である。この土偶は住居跡の中央の炉跡付近から上半身と下半身が折れた状態で、やや離れて出土した。全体的に摩擦による消失が進んでおり、特に頭頂部、右腕先、脚の一部が明白である。この土偶の損傷は故意に摩滅したのか否かについては一概に言えない。また、この土偶を横から観察すると胸の部分と脚が前に突き出ている。そして、脚は前後に突き出ていることがわかる。多くの土偶は胸の膨らみや腹部の妊娠表現が特徴的な女性像が多いが、前後に脚が突き出ているこの土偶は女性像からはかけ離れている。また、女性らしいくびれの表現も欠けている。

### ③ No.9遺跡の土偶

No.9遺跡から出土した土偶5つに共通している特徴は、どれも土偶の脚のへりの部分がなめらかな曲線であることだ。No.9遺跡以外の、多摩ニュータウン遺跡から出土した土偶は両脚の間に隙間があり、人間の脚とそっくりである。しかし、No.9遺跡の土偶は全て両脚がくっついており、へりがなめらかである。

E.

## まとめ

土偶の特徴から、この地域で暮らしていた人々は、土偶を安産祈願や子孫繁栄だけで製作、使用していたわけではなく、土偶を守り神のように扱うことでアニミズム的、呪術的な目的で使用していたという見方も可能になる。また、仮にNo.939遺跡の土偶が安産祈願を願って作られた土偶であるとすれば、なぜわざわざ柱の内部に埋め込む意味があったのか、一度埋め込んでしまえば取り出すことはほとんど不可能になるため、一時的な安産祈願のために使用したとは考えにくい。

しかし、多摩ニュータウン遺跡という、日本全国で見ると狭い範囲内での土偶から考察したということや、土偶は現在でもどんどん出土していて、最近では男性土偶の出土も増えているということなどから、この研究にも限界点があると感じた。土偶の安産祈願以外の使用目的を考察するには、多摩ニュータウン遺跡の遺物をより詳しく調査するとともに、広範囲から土偶を考察していく必要がある。

### 参考文献

- (1)原川雄二、松井和浩、及川良彦(2002)多摩ニュータウン遺跡No.939遺跡 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第104集、財団法人 東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター  
千田利明(1999)多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告14 東京都埋蔵文化財センター調査報告第69集、東京都教育委員会・東京都埋蔵文化財センター  
東京都教育委員会(1988)多摩ニュータウンNo.57遺跡―遺跡の整備と概要のあらまし―、東京都教育委員会